



VOL. 21 No. 3 The University of the Ryukyus Library Bulletin. 1988. 9. 12

図書館との係わり

渡久山 章

「びぶりお」担当の方から何か書くように依頼がありました。「ツバメ」のこと、自分では面白いと思うが、内容がそぐわない? 「言葉」ではどうだろうか。「言葉」なら図書館とも関係があると思われます。もし「言葉」で書くとしたら何を書こう?

1つは、口から発することをどうして「ことば」と呼ぶのかということです。どうしてことうみ(言海)とか、ことつち(言土)とか、ことそら(言空)、……とか呼ばないのでしょうか? そのことについて勝手に思いをめぐらしてみました。例えばガジマルを考えてみます。ガジマルにはたくさんの葉っぱがついています。葉っぱがたくさん集って1本の有機体をつくっています。言葉も似ているのではないのでしょうか。たくさんの語を話し、書きあって意味を持たせた文章をつくることができます。木の葉は少しならちぎっても木が枯れることはありません。言葉もいくつか抜いたって意味が通じる場合もあります。この点でも木の葉と言葉は似ています。言葉は、言海、言土、言空などではおきかえられないように思えてきます。もしかしたら木をじいーっと見ていた人が

目 次

図書館との係わり (渡久山 章)	1	図書館事情.....	12
図書館業務電算化通信No 9	4	医学部分館コーナー.....	12
図書館業務電算化日録.....	4	医学部分館運営委員会 委員名簿.....	14
台湾の大学図書館との相互協力について...	5	ブランジング・コーナー.....	15
外国学術図書の受入について.....	10	お知らせ・開館時間の変更について.....	16

「ことば」ということばをつくったのかも知れないと思えてきます。もしこのことが少しでも当たっていたら木の意味をまた別の角度から考えてみななければなりません。

二番目に「タブー語」について書いてみたいと思います。「タブー語」といっても少なくとも二種類以上あるように思われます。1つは社会全体が持っている「タブー語」です。もう1つは「自分のタブー語」です。書くなら後者について書いてみたい。

先日痔の手術で入院している方を訪ねて話しました。「何痔だったんですか？ いは痔？ 切れ痔？ ……？」など、病名を使って話したあと、気分が楽になっていくのを感じました。それまでの筆者は病気の人を訪ねて、病名を出して話したことはなかった。恐くて話せなかったのです。その意味では筆者にとってあの日は大事な日だったといえます。使えなかった言葉を出すことによってその言葉が自分の内から飛び出し、1人立ちして歩いていくのを感じます。その後は力も湧いてきます。筆者には未だタブー語があります。それらを自由に使って話してみたいものです。

「言葉」に引きつけられることは他にもあります。原稿を頼まれた時、調べて書いてみたいと思っただのですが、ままならず、「図書館との係わり」となった次第です。

図書館との接しはじめは高校生の頃でした。図書館は教室とは別棟になっていて、小高くて、周りは芝生が植えられ、モクマオウなども植っていて涼しく、好きな場所でした。図書館の先生もいい感じでした。そんなわけで何度か行っただのですが、残念ながら特別な印象を思い出せません。

大学（琉大）では入学時（1962年）のオリエンテーションで図書館利用に関する詳しい説明がありました。しかし、初めのうちはチンプンカンプンでした。それでも日が経つにつれ、友達に連れて行ってもらったりして時々利用するようになりました。その頃は、図書館を利用する者程勉強しているように見える、という噂も流れていました。そんななかで第1に書いておきたいのは雑誌室で、月刊雑誌「化学」（化学同人発行）を手にしたことです。特に阪大教授だった槌田龍太郎先生の文章に接したことでした。先生は二年次の時使ったテキスト「分析化学実験法」の著者でした。テキストを書いている先生ということで雑誌にも興味を持つようになったと思います。先生はその雑誌に毎号のように書いておられました。専門的な化学に関することは解らなかつたのですが、やさしい解説やいろんな話題をとりあげて進められる「座談会」などに、興味をそそられました。そして、先生の生き方、社会観、教育観、資源論などにひかれていきました。「先生に会いたい」という思いも強くなっていました。「研究というものは面白いものらしい」という刺激も受けました。大学院に進学すれば講義が受けられるかもしれない、とも思ったりしました。

先生に引かれるようになった文章の中からひろってみますと、「仏教で智慧を磨く道は三つとされている。聞と修と思がこれである。いずれに偏っても円満な智慧は得られない。これを教育にあてはめると、聞とは講義を聞いたり読書したりすることであり、修は練習実験や演習であり、思は思索や研究である。講義ばかり聞いて実験しなければ門前の小僧になるし、思索が実験から遊離したのでは口頭禅に類する。さればといって実験にばかり没頭して読書や思索のないものは、味噌すり坊主と大差がない」〔1953年、「分析化学実験法」（共立出版）序文〕というのです。考え方では、四権分立の思想「政党和政府による教育支配を排除するためには、教育権を立法、行政、司法の三権と並んで独立させる必要がある」〔1959年「化学」10月号）、確安亡国論（1957年「化学」3月号）、

未来人への侵略「文化の美名の下に物質とエネルギーの浪費が行われるならば、これは似而非文化であり、文明の破壊である。我々は消費生活においては何等かの限度を守るべき義務を負っているのである。」(1949年「化学と工業」2月号)などでした。

慕っていた樋田先生だったのに、1度も会うことはできませんでした。先生は筆者が大学に入学した年の5月に亡くなられていたのです。仕方なく雑誌「化学」を手にするしかありませんでした。樋田先生のことを思うと淋しい気がしていましたが、1975年「化学者、樋田龍太郎の意見(化学同人)」という本が出版されました。樋田先生の二人の息子さん、樋田敦、劭さん達の編集によるものです。その本を通してお二人を知ることができ、敦さんとはいろんなことを話し合うようになっています。図書館で起った樋田龍太郎との出会いは未だ未だ続きそうです。

図書館との係わりの中で筆者には今までに三つのことがあったと思われまます。一つはすでに書いたこと、二つ目は自分の専門分野に関する学術雑誌や本を通してのこと、そして三つ目は「沖縄」に関する雑誌にふれたことです。それは就職(1970年)後のことでした。芝居を好きなある人から「新沖縄文学」という雑誌があって、大城立裕さんという人が書いている。注目していたら芥川賞をもらった」という話を聞きました。そんな雑誌があるのかと捜してみますと、図書館内に郷土資料室というのがあって、そこにありました。ただ郷土資料室は閉架式でした。許しを得て入って、沖縄では民族、言語、うた、歴史などの分野で多くの研究がなされていることを知りました。文章のすごさ(よさ)を初めて感じたのも新沖縄文学を通してでした。第25号に載っている宮城聡氏の文章のことです。内容は息子さんを亡くされたことを書いたものです。「息子の死」という大事件を悲しみをのりこえてこんなにも長く文章化できるものかと思いました。人の強さが伝わってきました。その他、何人かの方々の方々の文章や発言にも心をひかれました。

そういうことなどがあって郷土資料室は雑誌「化学」のおかれていた部屋と同じように図書館の中では輝く二つのうちの一つでした。残念なのは閉架式ということでした。開架式になってほしい、そうすれば沖縄のよさをもっと早くから知ることができたかも知れない、そんな人が増えるのではないか、文章の良さを感じる人がいるかもしれない、もっと深く人間のかかえる根本的な問題の鍵をひろう人もいるかもしれない、などと思っていました。その願いが今では1部かなえられています。図書館に入って右側、貸出しカウンターの向いに沖縄関係図書コーナーがあって、読書灯までついているのは嬉しいことです。

図書館との係わりあいの中からいくつかを述べてきました。雑誌「化学」との出会い、専門学術誌から受けている恩恵、「新沖縄文学」との出会い、これらは最も大事なできごととなっています。

さて、4番目の係わりになるのは出てくるでしょうか。「言葉」について調べるとしたらどの部屋に行けばいいのか、まずここから始めなければなりません。図書館の皆様方、どうぞよろしくお願ひします。

(とくやま あきら：理学部助教授・物理化学専攻)

〈図書館業務電算化通信 No 9〉

学術情報センターが電子メールのサービスを始めました

東京にある学術センターが電子メール NACSIS-MAIL (National Center for Science Information System-MAIL) のサービスを始めました。電子メールはコンピュータの通信機能を利用した郵便で、手紙よりも早く電話よりも確実な通信手段です。メッセージがコンピュータに記録されるので、端末を使っていつでもどこからでも手軽に利用できます。また一度に何人もの人に同じメッセージを送ったり、受信者が受取ったかどうかの確認もできます。

利用資格としては、原則として国公立の大学、短期大学、高等専門学校、国立大学共同利用機関の教職員、大学院生、文部省所轄機関等の職員などで、学術研究及びの支援業務のために利用することができます。利用料金は登録も含めて無料です。月末及び年末年始をのぞいて一日24時間、通年サービスされています。

利用手続きには、(1)利用申請書を直接学術情報センターに提出する方法と、(2)学術情報センターの情報検索サービス (NACSIS-IR) に登録した後、コンピュータによって申請する方法とがあります。詳細については「電子メールシステム利用の手引」をご覧ください。

このシステムについての問合せ先、「利用の手引」申し込み先は
〒112 東京都文京区大塚 3-29-1 学術情報センター共同利用係 (TEL 03-944-7115)
です。図書館学術情報係 (内線2146) でも「利用の手引」はご覧になれます。また、パンフレットと利用申請書も用意しています。

よろしくご利用下さい。

(学術情報係)

図書館業務電算化日録

昭和63年6月～8月

- 6月1日(水) NACSIS-IR 情報検索サービス開始
 - 9日(木) 運用連絡班会議(第7回)
 - 10日(金) 館内 COBOL 研修会開始(週2回)
 - 22日(水) 運用連絡班会議(第8回)
 - 7月6日(水) 運用連絡班会議(第9回)
 - 19日(火) 富士通講習回「COBOL 基礎」(~22日、那覇、参加者:岡本)
 - 22日(金) 運用連絡班会議(第10回)
 - 29日(金) 運用連絡班会議(第3回)
- (電算化の残された課題について、専用機導入について)
- 8月8日(火) 富士通講習会「コンピュータ入門」

(那覇、参加者：金城真理子、山里道子)

12日 (金) 医学部分館の学術情報センター目録所在情報サービス利用申請承認される

16日 (火) 富士通講習会「新規ユーザーのためのKシリーズ紹介」

(那覇、参加者：金城照子、豊平、金城守)

23日 (火) 運用連絡班会議 (第11回)

29日 (月) 図書館業務電算化委員会 (第4回)

(電算化の残された課題について、専用機導入について)

台湾の大学図書館との相互協力について

当館は台湾の各大学及び研究機関と文献資料の相互交換協力を行っている。国立台湾大学からは「冠船日記」のマイクロフィッシュ版の寄贈を受けた。本学からは、当館所蔵の「史林」をコピーして送った。また国立中央図書館や国立中央図書館台湾分館、国立台湾師範大学等からも多数の図書および紀要の寄贈を受けている。特に紀要については等価交換を条件としているので、本学紀要の図書館への納本をお願いしているところだ。また先生方の著作物で、台湾に寄贈していただけるものがあれば図書館へご連絡をお願いします。

以下は台湾の各大学から寄贈された文献資料のリストです。

国立台湾大学図書館

冠船に付評価方日記 道光18 (1838) (尚育4) ~同治3 (1864) (尚泰17) マイクロフィッシュ 23枚

台湾国立中央図書館

1. 国立中央図書館善本図書微捲目録索引 (国立中央図書館) 1984
2. 国立北平図書館善本書目 (国立中央図書館) 1980
3. 蜀本 封思毅 (川康渝文物館) 1984
4. 族譜家訓集粹 (聯經出版事業公司) 1984
5. 地理枢用 游相校正 (武陵出版社) 1983
6. 三元秘本地理辨正參解 手抄名師鈴記合編 (集文書局) 1985
7. 台湾農村社会返遷 朱謙 漆敬堯合著 (台湾商務印書館) 1984
8. 第二屆中國社会經濟史研討会論文集 許倬雲等主編 (漢学研究資料及服務中心) 1983
9. 中國軍用鈔票史略 丁張 1982
10. 中國紙幣之沿革 第一輯 毛景安 1986
11. 國朝典故 (一) 明・劉辰等 (新興局) 1985
12. 中国現代史 郭庭鈺編著 (正中書局) 1980

13. 中國現代化的歷程 胡光熙 (傳記文學出版社) 1981
14. 台灣史蹟源流 林衡道 (行政院文化建設委員會) 1985
15. 中國的族譜 陳捷先 (行政院文化建設委員會) 1984
16. 閻錫山先生年譜 郭榮生 (苗栗) 1984
17. 影響中國現代化的一百洋客 胡光熙 (傳記文學出版社) 1983
18. 玉篇 (國字整理小組)
19. 玉篇索引 潘重規等 (國字整理小組)
20. 經典釈文韻編 上下 潘重規等 (文建會)
21. 經典釈文韻編索引 潘重規等 (文建會)
22. 全相平話武王伐紂書等 元·不著撰人 (國立中央圖書館) 1971
23. 東西晉演義 1~6 明·不著撰人 (國立中央圖書館) 1971
24. 祝氏詩文集 上中下 明·祝允明 (國立中央圖書館) 1971
25. 台灣詩文存彙 侯暢著 (台灣省文獻委員會) 1985
26. The Chinese Civil Service Examination System-A Historical View-by Examination Yuan, R.O.C. 1984
27. 中華民國學術機構錄第六版 (中·英) =Directory Organization of the R.O.C. (中央圖書館) 1987
28. 中國思想傳統的現代詮釋 余英時 (聯經) 1987
29. 中國哲學思想史/民國篇 羅光 (學生) 1986
30. 荀子思想研究 周群振 (文津) 1987
31. 荀子論集 龍宇純 (學生) 1987
32. 呂氏春秋探微 田鳳台 (學生) 1986
33. 自然的蕭聲—莊子說 蔡志忠 (時報文化) 1986
34. 中國禪學思想研究 何國銓 (文津) 1987
35. 明代道教正一派 莊宏誼 (學生) 1986
36. 中國近世宗教倫理與商人精神 余英時 (聯經) 1987
37. 四書人物 仇德哉 (商務) 1986
38. 老子詮證 李勉 (東華) 1987
39. 台灣民俗圖繪 向陽文立石鐵臣圖 (洛城) 1986
40. 台灣少數民族社會 (高山族) 的家庭研究 江亮演 (千華) 1986
41. 光復後台灣農業政策的演變—歷史與社會的分析 廖正宏等 (中研院民族所) 1986
42. 中國經濟制度史論 趙岡·陳鐘毅 (聯經) 1986
43. 台灣土著社會文化研究論文集 黃應貴等編 (聯經) 1986
44. 中國社會思想史 楊懋春 (幼獅) 1986
45. 台灣社會與文化變遷 上下冊 瞿海源·章英華 (中研院民族所) 1986
46. 台灣意識與中國意識：兩結下的沈思 黃光國 (桂冠) 1987

47. 台湾的地方新聞 吳滄海 (瑞泰) 1986
48. 台湾文学史綱 葉石涛 (文学界雜誌社) 1987
49. 文学與美学 龔鵬程 (業強) 1986
50. 白話文学史 唐朝 胡適 (遠流) 1986
51. 中国文学理論史上古篇 王金凌 (華正) 1987
52. 台湾建築史 李乾朗 (雄獅) 1986
53. 陶瓷 何寄澎 (主編) (幼獅) 1987
54. 書道技法 1 ~ 3 杜忠誥 (雄獅) 1986
55. 清史稿校註 (國史館) 第 1 冊 ~ 8 冊 1986 ~ 1987
56. 逐次刊行物 (等価交換)

I. 台湾國立中央図書館から琉球大学図書館へ

1. 数学與研究	年刊	國立臺灣師範大學文學院
2. 中國學術年刊	年刊	師大國文研究所
3. 東海畜牧學報	年刊	東海大學畜牧學會
4. 高雄工專學報	年刊	國立高雄工專
5. 海洋學報	年刊	國立臺灣海洋學院
6. 臺灣水產學會刊	半年刊	國立臺灣海洋學院
7. 經濟論文叢刊	半年刊	臺灣大學經濟學系
8. 嘉義農專學報	半年刊	國立嘉義農業專科學校
9. 東吳經濟商學學報	年刊	東吳大學經濟研究所
10. 大漢學報	年刊	大漢工商專校
11. 農業與經濟	年刊	臺大農業經濟學系
12. 中國數學雜誌	季刊	臺灣大學數學系

II. 琉球大学附属図書館から台湾國立中央図書館へ

1. 琉球大学教育学部紀要	半年刊	琉球大学教育学部
2. ♪ 農学部學術報告	年刊	琉球大学農学部
3. ♪ 理学部紀要	年刊	琉球大学理学部
4. ♪ 經濟研究	年刊	琉球大学法文学部
5. ♪ 国文学論集	年刊	♪
6. ♪ 語学文学論集	年刊	♪
7. ♪ 哲学論集	年刊	♪
8. ♪ 法文学部紀要・史学地理学篇	年刊	♪
9. ♪ 法文学紀要・社会学篇	年刊	♪
10. ♪ 琉大法学	年刊	♪
11. ♪ 医学会雜誌	年刊	琉球大学医学部
12. 沖縄県図書館協会誌	年刊	沖縄県図書館協会

國立中央圖書館台灣分館

1. 山堂肆考（芸文印） 1～25
2. 借月山房彙鈔（力行） 1～20 1968
3. 館藏中期刊人文社会科学論文分類索引（國立中央圖書館台灣分館） 1979
4. 台灣文獻書目解題（國立中央圖書館台灣分館） 第1種 方志類（一） 1987
5. 日文舊籍目錄（國立中央圖書館台灣分館） 1984
6. 日文台灣資料目錄（國立中央圖書館台灣分館） 1980
7. 國立台灣大學中日韓文期刊目錄 第3版 1985
8. 中央研究院民族學研究所藏目錄 台灣研究資料 1987
9. 第三回版南洋年鑑 臺灣總督府
10. 第四回版南洋年鑑 上, 下 各2冊 臺灣總督府
11. 臺州年鑑 臺灣總督府外事部
12. 南洋水產資源 第一～三卷 南洋協會臺灣支部
13. 南洋圈の經濟的価値 南洋協會臺灣支部
14. 英領馬來事情 南洋協會臺灣支部
15. 比律賓の農業教育（南洋叢書第44卷） 南洋協會臺灣支部
16. 蘭領東印度に於ける「外國人の投資」（南洋叢書第45卷）
17. 英領北ボルネオ タワオ地方に於ける椰子栽培業（南洋叢書第46卷）
18. 爪哇の糖業政策及糖長機關（南洋叢書第48卷）
19. 比律賓群島の水產資源（南洋叢書第49卷）
20. 佛領印度支那金融事情（南洋叢書第50卷）
21. 熱帶地に於煙草の栽培法（南洋叢書第51卷）
22. 蘭領印度行政關係法規及選舉法 南洋協會臺灣支部
23. 比律賓の現状 南洋協會臺灣支部
24. 暹羅研究 第一篇 南洋協會臺灣支部
25. ビルマの現状 南洋協會臺灣支部
26. 大支那の片目一海南島体験實記 南洋協會臺灣支部
27. 南支南洋鳳梨事業 南洋協會臺灣支部
28. 織物市場としての蘭領印度 第一～二輯 南洋協會臺灣支部
29. 比律賓鉅業の現況 南洋協會臺灣支部
30. 比律賓ボルネオ並にセレベス近海に於ける海洋漁業調査
31. 比律賓群島に於ける鳳梨事業 南洋協會臺灣支部
32. 南洋諸國に於けるエステート・ゴム及び土人ゴム
33. 英領馬來の漁業 南洋協會臺灣支部
34. 布哇大學に於けるパインアップル事業に関する諸講演

35. 英帝国領土内に於けるバナナの生産状況 南洋協会臺灣支部
36. 福建省に関する抗戦中の諸問題 (南支調査資料)
37. フィリピンの林業 南洋協会臺灣支部
38. 英領マレーの林業 南洋協会臺灣支部
39. 馬來—日本語字典 平岡閔造・ハジーピン・ウオンチ編
40. 簡易実用「馬來語会話」 南洋協会臺灣支部
41. 1927年布哇鳳梨業者会議議事録
42. 比律賓の鉱物資源 (南洋資料第三号)
43. フィリピンの畜産 (南洋資料第六号)
44. 豪州要図及地名要覧 (南洋資料第十号)
45. 南洋資料館報 第2, 第4・5・6合併号, 第7・8・9合併号
46. 佛印事情 南洋協会臺灣支部
47. 友邦泰國の現況—泰國要説 南洋協会臺灣支部
48. 実用日馬事典 臺灣総督府外事部
49. 苧 麻 臺灣総督府
50. 臺北帝国大学第貳回海南島學術調査報告
51. 福州事情 (臺灣総督府外事部調査第19)
52. 泰國要説 (第20)
53. 佛印に於ける道路河川其地に関する視察報告 (第28)
54. ボルネオの植物 (第36)
55. 南方に於ける土俗建築 (第89)
56. 比律賓小史 (第100)
57. 送金並に投資を通じて見たる華僑經濟事情 (第133)
58. 南支方面司法事務視察報告書 (第136)
59. 東印度の佛教文化 (第137)
60. 南方栽培植物の起源と分布 第1編 (第144)
61. 南支那民俗誌—海南島編 (第146)
62. マライ (第153)
63. 豪州 (第160)
64. 大東亞圏の綿作害虫 (第165)
65. 南洋各地統治組織及土民運動
66. 南洋地名集成
67. 南洋拓殖衛生指針
68. 比律賓綿花栽培資料 (南方共栄圏に於ける綿花研究資料 第一)
69. 蘭領印度に於ける灌漑
70. 佛領印度支那の蔬菜

71. 佛領印度支那に於ける土地所有
72. 南方医学文献目録
73. 南洋方面鉄道関係建築物写真
74. 比律賓貿易統計
75. 緬甸の財政
76. 緬甸の華僑
77. 東南亜細亜家畜要覧
78. 熱地生薬調査—衛生林料関係調査研究
79. 英領北ボルネオ要覧
80. ココ椰子
81. シサル繊維

その他の逐次刊行物

1. 台湾省立博物館季刊（省立博物館） 第6巻～40巻（1953～1987）
2. 民族学研究所集刊（中央研究院民族学研究所） 第1期～62期（1956～1986）
3. 民族社会学報（国立台湾大学） 14～16（1976～1978）
4. 社会科学論叢（ ） 第6輯～36輯（1955～1988）
5. 文史哲学報（ ） 第7期～34期（1956～1985）
6. 歴史学系学報（ ） 第2期～12・13期（1975～1986）
7. 中山学術論叢（ ） 創刊号～7期（1985～1987）
8. 法学論叢（ ） 第1巻～17巻（1971～1987）
9. 師大論叢（国立台湾師範大学） 第1期～26期（1956～1981）
10. 国文研究集刊（ ） 創刊号～29号輯（1970～1987） 欠号あり
11. 東海学報（東海大学） 第15巻～25巻（1974～1984）
12. 台湾農業 第1巻～13巻（1965～1977）
13. 農林学報 第1輯～22輯（1952～1973）

外国学術図書の受入について

附属図書館では、昭和62年度補正予算による外国学術図書を下記の通り購入しました。
現在、整理中ですが近日中に利用に供される予定です。

なお、これらの図書の購入にあたっては、南九州地区のお世話を下さった熊本大学附属図書館に感謝申し上げます。

品名	発行国	出版形態	数量
1. A Collection of Fundamental Books on "Economics, from Loyola Seminary Library Fordham University. (経済学基本図書コレクション)	U.S.A.	オリジナル	1セット
2. American Doctoral Dissertations. (19世紀米国写実主義作家研究 学位論文集)	U.S.A.	リプリント	1セット
3. American Mathematical Society Translation Series, 2. (米国数学協会翻訳シリーズ 2)	U.S.A.	オリジナル	1セット
4. Landolt-Bornstein Series. Group III, Vol.10a-b, 13a, 14b2, 17e. (物理篇) (ランドルト・ベルンシュタイン数値データ集)	DEU	オリジナル	1セット
5. Chemistry and Chemical Engineering, Vol. 1-12, 14-31. (化学と化学工学)	U.S.A.	オリジナル	1セット
6. Das Pflanzenreich. 105Vols.	DEU	オリジナル	1セット
7. Cell Biology: A Series of Monographs. (細胞生物学)	U.S.A.	オリジナル	1セット
8. Proceedings in Life Science. 1-63. (生命科学会報)	DEU	オリジナル	1セット
9. Handbook of Clinical Neurology. Vol. 9, 11, 12, 14-46. (臨床神経学ハンドブック)	U.S.A.	オリジナル	1セット
10. Handbook of Clinical Neurology. Vol. 55-82. (実験薬理学ハンドブック)	DEU	オリジナル	1セット
11. Catalog of the Avery Memorial Architectural Library, 2nd ed., Enlarged. (Avery 記念建設図書館カタログ)	U.S.A.	Mフィルム	1セット
12. Developments in Geotechnical Engineering. Vol.1, 4, 8, 11-12, 14-15, 16B-25, 27-40.	U.S.A.	オリジナル	1セット
13. X線粉末回折データファイル Inorganic ブックフォーム Vol. 1-28, サーチマニュアル 2点	U.S.A.	オリジナル	1セット
14. 米国農務省技術資料集成—ハンドブック・報告 ・技術通報	U.S.A.	Mフィッシュ	1セット
15. 米国政府プロジェクト成果報告書 —熱帯農業—	U.S.A.	リプリント	1セット
16. Metals handbook, Vol. 1-13+Index. (金属ハンドブック)	U.S.A.	オリジナル	1セット

図 書 館 事 情

〔第175回図書館運営委員会〕

口 時：昭和63年5月26日（木）

場 所：図書館会議室

議 題：1. 学生用図書館の選択について 2. 沖縄関係文献資料保存計画について 3. その他

報告事項：1. 視聴覚機器専門委員会報告 2. 九州地区国立大学図書館協議会・九州地区国立大学図書館協議会・九州地区大学図書館協議会総会報告 3. 共通図書費要求について 4. 図書館電算化システムにおける経費について 5. 国立大学附属図書館事務部課長会議報告 6. その他

〔出張〕

昭和63年5月24日（火）受入係 榮野川敦

富士通講習会「COBOL基礎」参加、那覇・27日まで

昭和63年6月1日（水）情報サービス課長 山田勉

第9回EDCセミナー参加 北海道大学・3日まで

昭和63年6月22日（水）事務部長 重松多喜造、情報管理課長 橋本健一

第35回国立大学図書館協議会総会出席、神戸・25日まで

昭和63年7月19日（火）参考調査係 岡本淳子

富士通講習会「COBOL基礎」参加、那覇・22日まで

昭和63年8月18日（木）分館閲覧係長 平陽子

第36回九州地区医学図書館協議会総会出席、熊本大学・20日まで

昭和63年8月30日（火）学術情報係長 本郷清次郎

昭和63年度図書館等職員著作権実務講習会参加、神戸・3日まで

医学部分館コーナー

〈オリエンテーション〉

昭和63年5月30日（月） 13：10～15：00 情報検索のオリエンテーション

対象 昭和63年度入学医学科大学院生 5人

昭和63年6月3日（金） 13：10～15：00 情報検索のオリエンテーション

対象 昭和63年度入学医学科大学院生 4人

〈新着図書案内〉

薬理学

1. 薬事法薬剤師法関係法令集 (厚生省薬務局監修) 薬務公報社 1988 分類：R-QV32

臨床病理学

2. 臨床検査小史 (臨床検査小史編集委員会編) 日本臨床小史編集委員会 1988 分類：QY4

3. 臨床検査マニュアル (北村元仕他編) 文光堂 1988 分類：QY4

4. 臨床検査MOOK No28 (日沼頼夫編) 金原出版 1988 分類：QY5

5. 臨床検査MOOK No29 (亀山正邦、三宅健夫編) 金原出版 1988 分類：QY5

病理学

6. 現代病理学大系 10A (飯島宗一他編) 中山書店 分類：QZ5

医業

7. 最新医学略語事典 (牛場大蔵監修) 中央法規出版 1988 分類：R-W13

公衆衛生

8. 厚生白書 社会保障を担う人々—社会サービスはこう展開する—昭和62年版 (厚生省編) 厚生統計協会 1988 分類：R-WA525

9. 環境六法 昭和63年版 (環境庁環境法令研究会編) 中央法規出版 1988 分類：R-WA670

臨床医学

10. 内科学 疾患篇 上下 (小坂樹徳監修) 診断と治療社 1988 分類：WB100

11. 臨床薬物治療学大系 1-21 (砂原茂一 植木昭和監修) 情報開発研究所 1988 分類：WB330

筋肉骨系

12. 整形外科MOOK No53 (伊丹康人 西尾篤人編) 金原出版 1988 分類：WE168

13. 臨床整形外科学 1-4 (大野藤吾他編) 中外医学社 1988 分類：WE168

神経系

14. 神経内科臨床ガイドライン (大石実) 医学書院 1988 分類：WL100

精神医学

15. 精神科MOOK No20 (島菌安雄 保崎秀夫編) 金原出版 1988 分類：WM5

外科学

16. 外科MOOK No49 (草間悟他編) 金原出版 1988 分類：WO5

皮膚科学

17. 購談社皮膚科診断治療体系 1-8 (福代良一他監修) 購談社 1987 分類：WR5

小児科学

18. 小児科MOOK No52 (馬場一雄 小林登編) 金原出版 1988 分類：WS5

医学部分館運営委員会委員名簿

昭和63年4月1日付で、医学部分館運営委員会委員が代りました。

新委員は次のとおりです。

昭和63年4月1日現在

職名	講座	氏名	任期
分館長	外科学第二教授	草場 昭	自昭和63年4月1日 至昭和65年3月31日
委員	生理学第二教授	寺嶋 眞一	自昭和63年4月1日 至昭和65年3月31日
委員	寄生虫学教授	佐藤 良也	自昭和63年4月1日 至昭和65年3月31日
委員	内科学第一教授	斎藤 厚	自昭和62年10月1日 至昭和64年9月30日
委員	小児科学教授	平山 清武	自昭和63年4月1日 至昭和65年3月31日
委員	泌尿器科学教授	大澤 炯	自昭和63年4月1日 至昭和65年3月31日
委員	基礎保健学教授	山木 茂	自昭和63年4月1日 至昭和65年3月31日
委員	保健技術学教授	今村 禎祐	自昭和63年4月1日 至昭和65年3月31日
委員	保健技術学教授	島田 勝政	自昭和62年7月16日 至昭和63年9月30日



ブラウジング・コーナー

図書館よ、きみはいつでも美しい

附属図書館を利用して建築後7年になるにしては汚れが少ないことにお気づきですか？これは、ひとえに掃除をして下さっている小母さんたちの努力の賜物なのです。そのお一人のNさんが4月に定年退職されました。この欄を借りてNさんに関してのエピソードを一つ紹介させてもらって、彼女の永年の労苦に感謝したいと思います。

ある時、残業でおそくなった私は、頭がボーツとしていたこともあって玄関を出る時になにげなく自動施錠をしてしまいました。朝7時に出勤されるNさんはこの鍵を持っていません。そして私もまたこの時この鍵を持っていませんでした。閉めた後にそれに気付いたのですが時すでに遅く、どうしようもありませんでした。翌朝、他の人からマスターキーをかりて7時少し過ぎに出勤したところ、Nさんはすでに外で待っていました。彼女はただ単に所在なげに待っているのではなく、外側から一生懸命窓を拭きながら待っていてくれたのです。

図書館を気持ちよく利用してもらうためにこのような努力が払われています。ゴミはゴミ箱に、入館の際には靴の泥を落して、洗面所はきれいななど、ほんの少しの心掛けでだいぶ違ってきます。利用者の皆さんのご協力もよろしくお願いします。

もりそば

30年以上も昔の話だが、沖縄から上京した僕の友人たちが、4・5人で何か食おうとそば屋に入った。隣の席の人が「もりそば」というのを注文したら、箱の一杯、しかももりあげて持ってきた。これを盗み見したくだんの連中、値段表を見たら一番安い。あんなにたくさん入っていて、こんなに安いからそれにしようかと衆議一決した。出て来たものを食べはじめてびっくりした。上げ底ではないか。御丁寧にもきれいなすのこまでしいてある。だまされたようなあきらめきれない気持ちだったという。それはさりとて、めんつゆをもりそばの上におちまけて、スポンがびしょびしょになるのも知らないで食べていたサムライがいたというのにはあきれてしまった。

(情報サービス課 T. Y.)



〈お知らせ〉

秋季休業に伴い開館時間が下記のとおり変更になりますのでお知らせします

9月27日（火）～10月8日（土）

8時30分～17時（但し土曜日は12時30分）

10月10日（月） 公休日（体育の日）閉館

10月11日（火）より通常どおり開館

8時30分～21時（但し土曜日は17時）



琉球大学附属図書館報 “びぶりの” 第21巻 第3号〔通巻第80号〕

昭和63年9月12日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話 (09889) 5-2221 内線 (2143) 編集 びぶりの編集委員会